
スペイン語を専攻する学生のための教材研究

Arturo Varón / Víctor Calderón / 高垣敏博 / 片岡喜代子 / 菊田和佳子

本研究グループは、スペイン語を専攻する学生に向けた教材の研究を目的として、2014年度から活動を行っている。本研究グループのメンバーが所属するスペイン語学科のカリキュラムは、スペイン語を専攻言語とし、その語学力を生かして、スペイン語圏の言語・文化・歴史・社会に関する専門的知識を修得することを目標としている。そのためには、専門分野の研究をするのに十分なスペイン語の知識を1-2年次の内に学生に身につけさせる必要がある。スペイン語学科では、効果的な学習のために、1-2年次には会話を中心とするネイティブ教員の授業を週2コマ、文法を中心とする日本人教員の授業を週3コマ開講（必修科目）し、それぞれのクラスの担当者が互いに連携を取りながら授業を進める体制をとっている。また科目によって違いはあるが、少人数制や習熟度別のクラス編成も実施し、学習しやすい環境づくりに努めている。

しかし、教材に関していえば、本学科のようにスペイン語を専攻語とする学科ならではのプログラムに合ったものはほとんど市販されていないのが現状である。また、体系的に言語を学ぶ文法の

教材と言語運用を重視する会話の教材の性質は当然異なるため、それぞれの授業で用いられる教材の文法配列や語彙などは一致していないことも多い。その結果、学習事項が一気に増える1年次の後期あたりから学生の間でも混乱が見られるようになり、これが学習意欲低下の一因ともなっている。

本研究は、こうした諸問題を解決するため、教材開発の段階から日本人教員とネイティブ教員が連携をとり、学習事項の提示順や語彙、話題の選択などを工夫することによって、効率よく学習効果を上げることができ教材を開発することを目指している。2016年度は、文法を中心にこれまでの教材の問題点の洗い出しと本学科の学生のレベルや関心にあった内容の検討を行った。今後は、ネイティブ教員（代表：バロン）が準備を進めているテキストとの調整を行い、採用すべき文法事項の配列や語彙について検討する予定である。言語センターからの助成を受け、2017年度にパイロット版を完成すべく、教科書作成担当者（代表：高垣）を中心に新しい文法教材の執筆を進めている。